

大川を花で溢れる地域にしたい



永尾農園

代表 永尾

秀樹さん

今月の夢追い人は永尾農園の代表永尾秀樹さん。永尾農園は、昭和初期から大川農会として地元から親しまれてきた農園。昔からの顧客も多い。永尾さんは大川三潞地区高齢者大学園芸コースの講師も現在まで六期ほど務めておられる。

訪問したとき、親しげに会釈された永尾さんの表情が印象深い。言葉の端端に、優しい人柄がにじみ出てくる方だ。たびたび近所の方々に声を掛け、農園でガーデンパーティーを開く。永尾さんのご夫婦の



人柄があるのだろうか、毎回二十名くらいの方々が集まり、和気藹々と交わりを楽しんでいるという。

永尾農園では、新しい方々も歓迎される。農園内に休憩所も設られ、花々を楽しみながらお弁当を楽しむこともできる。もちろん市価より安く、健康な「本物」の苗や鉢物、種を購入できる。

永尾農園は、全国的なネット、フジテレビフラワーショップに加盟していて、全国、そして世界へ花束を届けることができる。またガーデンング教室、学校・中央公園の花壇などの管理、花嫁向けにブーケの製作、庭のレイアウト等の業務を行っている。それになんと言っても、「種苗店」として抜群の専門性。苗の育苗・販売で創業した大川農会の伝統を引き継いでいる。

「この大根はおいしいー!」「うちの種はいい実がなる」といった評判で久留米、佐賀などの遠方からの顧客も多いという。東京から出張の度、来られる方もいるという。ス



◀『はなに親しむ講座』での竹を使った作品



パーなどで売られている種、苗と違って、厳選された物だけを扱っているからだ。

インタビュ어의合間に年配のご婦人が来られ、しばしインタビューは中断。

「お宅のゴボウはうまかけん、買いに来たー。」

「どんくらしいると？」という風に永尾さんとご婦人の気さくな会話が始まる。

永尾さんは「超極早生タイプのゴボウ種を取り出しながらこれは3月、彼岸頃が時期よ」

「ぶつうんーそうね。それからお宅からもらったトウモロコシから種を取って植えようと思うけど、いつ頃植えたらよかね？」

「ああ、それは、F1と違って、一代交配の種だから、実から種は取られんよ。あたりに買わんといかん。もちろん実はあるけど、美味しくないよ。」

「へえーそうね!!」
：と云う風に会話はさらににんじん、キュウリ、肥料のことなどに及んでいく。

会話の中で興味深かったの

は、なす科、豆科の作物は連作がダメで、アブラナ科、瓜科の作物は連作が効くとの知識。それに一般の肥料（たとえば窒素多量肥料）の中には茎や木の部分だけ育ち、実は小さくしかならない種類もあると言った情報。

永尾さんの懇切丁寧で正確なアドバイスを聞いてみると、すぐにも試してみたいかなる。

永尾さんの夢をお伺いした。「大川を花で溢れる地域にしたいですねえ。現在大川樟風高校のレインボープロジェクト（花いっぱい運動）に関係しています。とても良い経験をしています。生徒たちは職場体験に出かけるときもそれぞれ花を持って行きます。すると職場がよい雰囲気になったそうです。また校門の前に花々を飾るようになると、校長先生の話ですが、学校内のムードがとても明るくなったそうです。花の力だと思えます。確かに花には、楽しい明るい雰囲気に変える力があると思つのです。元気な店もそうです。例外なく美しく花が飾られています。大川も元氣

で花が何処でも見られる地域になることを心から願っています。」

◆ 春の季節、リフレッシュに永尾農園に出かけてみられるはいかがでしょうか。美しい花々や永尾さんのお話を楽しめると思っています。

アクセス

国道二〇八号線榎津の信号の岩田屋ギフトサロンから樟風高校の方へ曲がる。グラウンドに突き当たったら、左折。一〇〇mほど行った左手。



永尾農園

URL : <http://www.geocities.jp/flowerflower317/newpage1.html>

E-mail : nagao@kumin.ne.jp

☎0944(87)4101